AMDA ジャーナル ー国際協力ー　2012 年夏号 付録　2012 年 7 月 25 日発行　□発行定日　年 4 回（1・4・7・10 月 各 25 日）□ 1995 年 11 月 27 日　第三種郵便物認可

AMDA 年次報告書

2011.4.1 ～ 2012.3.31

タイ洪水被災地を、AMDA 寄贈ボートで巡る AMDA 医療チーム　2011.10 ～ 11

平成 23 年度も多くのみなさまの温かいご支援により様々な事業を実施することができました。
ここに感謝とともにご報告いたします。

緊急支援活動

■フィリピン・パンパンガ州洪水緊急支援活動

診療に集まった人々

◇**実施場所**　フィリピン共和国　リザール州キサオ町、ブラカン州ハゴノイ町、パンパンガ州マガラン町サント・ニンニョ村
◇**実施期間**　2011年10月3日～2011年10月22日
◇**派遣者**　ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン　調整員／AMDA本部職員

◇**事業内容**

フィリピンでは、10月3日と10月6日に立て続けに2つの台風（台風17号・台風19号）に見舞われ、広範囲で洪水の被害が発生した。台風17号はルソン地方中部を横断し、リザール州、ブラカン州、パンパンガ州などが大洪水に陥った。ブラカン州カルンピット町は、10月5日の時点で腰の高さまでの浸水があった。10月7日時点で、31の州で台風の被害が発生した。全体で103,852世帯・約49万人が被災し、死者は56人、行方不明は28人にのぼった。

AMDAは緊急医療支援活動を行うため10月3日に本部の調整員を派遣した。本部の調整員はフィリピン国内で関係者との調整を行った後、10月4日にルソン島中部に位置するブラカン州ハゴノイ町でフィリピン沿岸警備隊と共に150袋のドライフードを配布した。10月6日にはブラカン州の南に接するリザール州のキサオ町で、フィリピン軍の内科・外科・歯科・眼科各医師、セラピスト、薬剤師等60人体制で巡回診療を実施した。この日の患者数908人だった。10月22日には活動地をブラカン州の西に位置するパンパンガ州に移し、AMDAフィリピン支部、フィリピン軍、イースト大学、パンパンガ農業大学などから協力を得ながら、同州マガラン町サント・ニンニョ村（マニラ首都圏から北方へ車で2時間の距離）で医科・歯科巡回診療を実施した。医療チームは、AMDAフィリピン支部のほかフィリピン軍やイースト大学の医師・歯科医・看護師や学生ボランティア50人で編成された。一般診療では325人、歯科診療では90人、合計415人を診察した。一般診療では、女性や子どもの患者が多く、身体の痛みや呼吸器系の感染疾患、皮膚疾患、喘息や呼吸困難の症状が多くみられた。歯科診療では、歯のクリーニングや、虫歯の治療、抜歯なども行われた。

◇**現地協力機関**
フィリピン軍、イースト大学、パンパンガ農業大学

■タイ洪水被災者に対する緊急支援活動

孤立した村に救援物資を届けるAMDAチームのタイ救援医学会サン会長

◇**実施場所**　タイ王国バンコク首都圏、ナコンサワン県、ノンタブリー県、パトゥムタニ県、ナコンパトム県
◇**実施期間**
2011年10月14日～2011年11月27日
◇**派遣者**　古谷清久　医師、武田未央　保健師／看護師、大政朋子　調整員／AMDA本部職員、日下琢雅　医師、中井隆陽　看護師、山路未来　看護師、米田恭子　助産師／看護師、柴田幸江　看護師、山川路代　理学療法士
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
タイ救急医学会（TAEM: Thai Association for Emergency Medicine）や国立ラチャウィティ病院に所属する医師・看護師など20人程

◇**事業内容**

タイでは7月末からモンスーンと相次いで通過した台風による豪雨に見舞われた。タイ北部から始まった洪水は徐々に南下し、10月中旬にバンコク北部に達した。11月8日、濁流は首都バンコクの都心部に向かって南下を続け、災害対策本部の建物を取り囲んだ。バンコクでは全50地区のうち、少なくとも11地区で住民が避難した。タイを襲った大洪水による死者は、11月20日時点で602人にのぼった。AMDAは、深刻化するタイの洪水の被災状況と、東日本大震災でタイから医療チームを送ってもらったことを鑑み、10月14日から3度にわたり医療支援チームを派遣した。派遣者の総数は10人（医師2人、看護師5人、調整員3人）。

【第1次派遣チーム】
活動期間：
2011年10月14日～10月22日
派遣者：古谷清久医師、武田未央看護師、大政朋子調整員
活動場所：バンコク首都圏・ナコンサワン県
活動内容：タイ外務省へのライフジャケット250枚の提供。バンコクでの情報収集と医薬品・支援物資の調達。ナコンサワン県での医薬品・支援物資の配布。

【第2次派遣チーム】
活動期間：
2011年10月31日～11月9日
派遣者：日下琢雅医師、中井隆陽看護師、山路未来看護師
活動場所：バンコク首都圏
活動内容：バンコク市内の避難所のニーズ調査。スアン・スナンダ・ラジャパット大学内の避難所で巡回診療、医薬品やミルクの寄贈、保健教育の実施。ラチャマンカラ・スタジアムの避難所に乳児用ミルクを寄贈。AMDAボートの受け取りと試運転。ライフジャケット15枚の追加輸送。

■ミャンマー中部洪水被災者に対する緊急支援活動

救助される村人

◇**実施場所**　ミャンマー連邦共和国　マグウェ地域パコク郡
◇**実施期間**
2011年10月20日～2011年11月11日
◇**派遣者**　鈴木俊介（AMDA社会開発機構理事長）、鈴木梓（AMDA社会開発機構ミャンマー事務所業務調整員）
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
AMDA社会開発機構ミャンマー事務所現地スタッフ

◇**事業内容**

ミャンマー連邦共和国では、2011年10月17日から雨が降り始め、19日午後8時頃から急激な豪雨に見舞われた。豪雨によりミャンマー中央を流れるエーヤワディ川の支流が増水し、支流にかかる

橋が崩壊したり、高床式の住居の屋根まで浸水したりするなど、周辺地域に深刻な洪水被害をもたらした。

AMDAグループは災害発生直後から現地スタッフによる被害状況調査を行い、パコク郡行政官、保健局等関係諸機関と連携し、10月30日からマグウェ地域パコク郡のAMDAプロジェクト対象地区とその周囲7村（286世帯、7,345人）の被災者に対して、浄水フィルター、毛布、懐中電灯、衛生セット（タオル、石鹸とコップ、歯磨き等）などの支援物資を配布した。また、パコク郡保健局からの要請に基づき、仮設診療所で用いる医療機材等の供与も行った。11月10日と11日は、第1回目の配布が十分行き届かなかった9村（全1,669世帯）の内、家屋が流されたなどの特に大きな被害を被った90世帯に対して衛生キットの配布を行った。

◇現地協力機関

パコク郡行政、パコク郡保健局

■トルコ東部地震被災者に対する緊急医療支援活動・復興支援活動

ケガの治療にあたる大類医師（右）と渕崎医師

◇実施場所

トルコ共和国ワン県エルジシュ

◇実施期間　2011年10月24日～10月30日（緊急救援）、2011年11月26日～2011年12月3日（復興支援）

◇派遣者　渕崎祐一医師、大類隼人医師、イュルディス・アフメット通訳／調整員、武田未央保健師、ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン調整員／AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

同上

◇事業内容

日本時間10月23日午後7時40分過ぎに、マグニチュード7.2の地震がトルコ東部のワン県で発生した。トルコのエルドアン首相は、地震による死者が217人、負傷者が1090人に上ったと発表した。マグニチュード6.0を含む余震が約100回以上観測された。

AMDAは、地震発生の翌日10月24日にAMDA本部から渕崎医師、大類医師、アフメット調整員の3人を日本からトルコへ派遣した。AMDAの医療チームは、25日朝にワン市の空港に到着し、現地NGO「キムセヨクム」のワン事務所職員と合流。一行は最も被害が甚大だったワン県北部のエルジシュに到着し、患者が搬送されている仮設の病院（通称サハラ病院）での医療活動を開始。渕崎医師の神経内科、大類医師の胸部外科のそれぞれ専門性が求められることとなり、中心メンバーとして専門性を発揮した。被災地で医師の数が充足してきたことから、10月30日にワン県での活動を終了した。

地震から約1か月経った11月26日には、AMDA本部から調整員1人と看護師1人を派遣し、復興支援に向けてのニーズ調査を行った。AMDAが地震発生直後に活動していたサハラ病院は、場所を移して運営されていた。病院では300人を超える医療スタッフが働いており、巡回診療なども行われていた。ワン県は、クルド人が多く住む地域である。スポーツを通じてクルド人とトルコ人の若者が交流し、復興に向けての絆を強めることができるように、AMDAは、エルジシュの行政機関を訪問し、若者を対象としたスポーツ親善交流プログラムの開催について協議した。

◇現地協力機関

トルコの国際NGO「キムセヨクム」（日本語で「そこに誰かいますか」の意味）

■フィリピン・ミンダナオ島洪水緊急支援活動

薬剤の処方を待つ長い列

◇実施場所　フィリピン共和国　ミンダナオ島　カガヤン・デ・オロ、イリガン

◇実施期間　2011年12月21日～12月29日（第1次）、2011年12月29日～2012年1月3日（第2次）、2012年1月12日～1月16日（第3次）

◇派遣者

（第1次派遣チーム）武田未央　保健師／看護師、大山マジョリー　調整員／通訳、アミン・ユスフ　医師／AMDAインドネシア、ラニ・ハムカ　医師／AMDAインドネシア

（第3次派遣チーム）菅波茂　医師／AMDA理事長、ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン　調整員／AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

（第1次派遣チーム）エマニュエル・D・パンギリナン大佐／フィリピン軍(AFP)、ヴィルヒリオ・ガルシア大佐／フィリピン軍(AFP)、フィリピン軍（AFP）ミンダナオ島第4歩兵師団、フィリピン医師会

（第2次派遣チーム）ローエル・サラ　医師／AMDAフィリピン副支部長

（第3次派遣チーム）プリミティボ・チュア　医師／AMDAフィリピン支部長、AMDAフィリピンの医師3人、調整員3人（うち2人は大学教員）、フィリピン家庭医学会のボランティアスタッフ約25人

◇事業内容

フィリピンでは、2011年12月16日から17日にかけて台風21号が発生し、過去25年間で最大と言われる被害を、南部のミンダナオ島にもたらした。フィリピン政府の発表によると、死者数は12月末時点で1,249人にのぼり、2009年にマニラ首都圏を襲った台風オンドイによる死者を上回った。地元メディアによると、当時ミンダナオ島では2時間のうちに通常一か月で降る雨量を記録した。多くの住民、中でも子どもが避難に遅れて濁流に呑み込まれた。

AMDA第1次チームは、12月22日と23日に避難所のニーズ調査を行った後、24日と25日に巡回診療を実施した。24日は、カガヤン・デ・オロ市の4か所で巡回診療を実施し、3,875人の診察を行った。多くが咳などの呼吸器症状を訴えており、子供は咳などの呼吸器症状とともに高熱がみられる症例も多かった。同日に3か所の避難所で、水や米、缶詰、釘・ワイヤー、ブルーシート、毛布などを提供した。25日は、カガヤン・デ・オロ市のセント・ルーデス高校でフィリピン医師会の医師およそ100人と共に1800人以上の患者を診療した。

2011年12月29日から2012年1月3日までは、AMDAフィリピン副支部長ローエル・サラ医師が調査のためカガヤン・デ・オロ市とイリガン市に入った。その結果を受けて、2012年1月12日に第3次チームを派遣した。第3次チームは、1月13日から16日までの4日間、カガヤン・デ・オロ市とイリガン市で巡回診療を行い、523人の患者を診療した。患者の多くは女性と子どもだった。主な疾患は、風邪、咳、インフルエンザで、全体の75～80%を占めた。AMDAは最終日に8箱分の医薬品をフィリピン家庭医学会のカガヤン・デ・オロ支部とイリガン支部に寄贈し、活動を終えた。

◇**関係者の声**(2月11日に寄せられたメール)

カガヤン・デ・オロが所属する「フィリピン医師会第10区」を代表して、2011年12月25日カガヤン・デ・オロ市マカサディング、ルーデス体育館で行われた台風センドンの被災者に対するドクター・サンタ医療ミッションへのあなた方の多大な支援に心から感謝いたします。ドナーからの救援物資が遅れて到着するなかで、あなた方は我々の唯一の救いでした。その日の活動は大成功で1800人以上の患者を診療することができました。あなた方はその中で大きな役割を果たされたのです。私たちも、あなた方のお役に立っていたとすれば幸いです。改めて、感謝申し上げます。

フィリピン医師会第10区
ヴェロニカ・E・バガイポ医師

◇**現地協力機関**

・フィリピン軍（AFP）
第1技術行政サービス大隊
・フィリピン軍（AFP）ミンダナオ島
第4歩兵師団
・フィリピン職業医科大学（Philippine College of Occupational Medicine）
・フィリピン家庭医学会（Philippine Academy of Family Physicians）

■東日本大震災支援活動

◇**実施場所**　岩手県上閉伊郡大槌町、岩手県釜石市、岩手県大船渡市、宮城県仙台市、宮城県気仙沼市、宮城県本吉郡南三陸町、宮城県登米市

◇**実施期間**

2011年3月12日～現在継続中

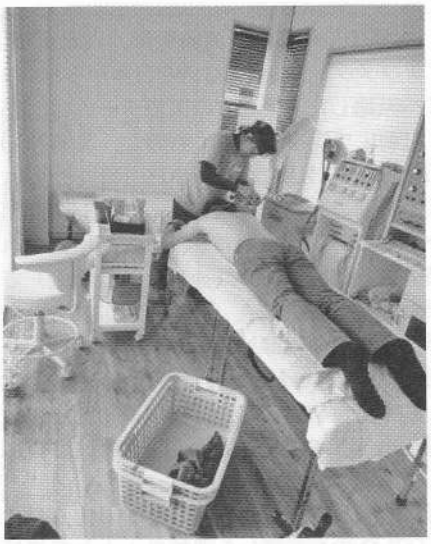
◇**派遣者**　菅波茂医師（AMDA理事長）を含む173人（医師23人、看護師41人、准看護師3人、助産師2人、薬剤師3人、心理士3人、鍼灸師3人、医学生21人、看護学生27人、調整員47人）

◇**事業内容**

2011年3月11日に発生した東日本大震災の翌日から第1次緊急医療チームが被災地へ入り、4月末までの間、被災地にて緊急医療支援活動を行った。避難所での診療活動の他に、巡回での診療活動、またビタミン剤の配布やレクリエーションの企画、運営、栄養プログラムの実践など、その時の避難所や被災地のニーズに即した支援活動を行った。

2011年5月からは「3か年復興支援」として、「医療・健康支援」「教育支援」「生活・自立支援」の3つの分野において、現地のニーズを常に見極め支援活動を継続している。現在実施している支援活動は以下のようなものである。

「医療・健康支援」としては志津川病院



AMDA大槌健康サポートセンターの内鍼灸院で鍼灸治療を行う様子

（南三陸町、登米市）大槌病院へ、夏季、冬季、春季に医療スタッフの派遣を現地のニーズに合わせて実施。また猪苗代病院（気仙沼市）に医療物資の提供のほか長期勤務が可能な看護師の呼びかけなどを実施。他にも緊急医療支援活動時に活動を共にした、被災地の医師らの独立、開業に医療機器、医療物資などの支援を行っている。また、鍼灸治療や地域のコミュニティースペースを設置した「AMDA大槌・健康サポートセンター」を建設し、地元住民の心身の健康づくりに活用されるよう運営している。

「教育支援」としては被災地の高校生を中心とした「AMDA国際奨学金」の支給をはじめ、被災地の中学生を岡山に招へいして実施した「スポーツ交流事業」また大槌高校吹奏楽部を岡山、広島に招へいして開催した「東日本大震災絆コンサート」などがある。さらに、制服支援や副教材支援なども実施した。

その他に「生活、自立支援」として、震災発生から交流が途絶えていた被災地の商店街や、住民をつなぐ被災地間相互交流プログラムを実施。その他にも震災ホームレス支援などを実施した。

志津川病院のみなさんと派遣者

◇**被災地の声**

AMDAには継続的に医師や看護師の派遣をしてもらって、本当にありがたいです。このような状況ではAMDAのように活動する方々が居なければ、成り立たないです。　（志津川病院 医師）

◇**参加者の声**

一見普通に仕事をされていた多くの看護師さんは被災者であるにもかかわらず、震災直後から働かれてきた事に敬意を表します。身体的・精神的にどれだけ疲れていたか・・・しかし地元の人にとって志津川の看護師さんの働きにどんなに助けられた事か計り知れません。来院される患者さんと看護師さんの会話はまるで家族のようで温かく、優しく包み込むようでした。震災によって大きく環境が変わり、病気の進行や新たに引き起こす疾病もあるかと思います。それらを見つけてあげるのが、この診療所の役目でもあり、とても大きな任務を背負っている事を感じました。この診療所での経験を出来るだけ多くの人に話し、今後もサポートできることがあれば行っていきたいと感じました。AMDAの皆さんありがとうございました。

（夏季医療者派遣参加 ボランティア看護師）

被災地フォローアップ活動

■インドネシア・メラピ火山噴火被害に対するフォローアップ活動

◇**実施場所**　インドネシア共和国ジャワ島中部　マゲラン県バンジュドノ村、ボヨラリ県セロ郡クラカー村

◇**実施期間**　2011年5月5日～8日、2012年2月13日～14日

◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**

現地NGO「YKPスラカルタ」

◇**事業内容**

2010年11月に発生したインドネシア・メラピ火山噴火による被災者に対して災害直後に緊急医療支援活動を行った。

そして今年度、2回のフォローアップ活動を行った。5月にマゲラン県で、周辺の村の参加者も含めて100人が参加し、溶岩の被害を受けた墓地の移転作業や、排水溝の整備を行った。

2012年2月には、メラピ火山の山頂から3キロの距離にあるボヨラリ県セロ郡クラカー村からの上水設備の整備支援要請に応え、上水道整備をトラック2台で運び込み、設置した。

クラカー村長からAMDAとYKPスラカルタへ感謝状が贈られた。

◇**受益者の声**

5月の活動に参加したボランティアの一

人は「日本の人びとは津波の被害を受けたにも関わらず、まだ私たちのことを考えてくれている。日本の人びとの支援に大変感謝します」と語った。

■ハイチ共和国　無料歯科診療

フォンデヌグル市救世軍病院内で歯科治療を行うAMDA歯科チーム

◇**実施場所**　ハイチ共和国ニップ県ミラグラン郡フォンデヌグル市
◇**実施期間**　2012年2月3日～2月4日
◇**派遣者**　日本からの派遣者はなし
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
マック・ケビン・フレデリック歯科医師/AMDAハイチ支部長、レンズ・パトリック・エチエンヌ医師、その他、歯学生2人、助手3人、運転手1人、調整員5人のチーム13人

◇**事業内容**
AMDAハイチ支部は、2012年2月3日と3日の2日間、ハイチ南西部に位置するニップ県ミラグラン郡フォンデヌグル市の救世軍病院で、無料の歯科診療を行った。AMDAは2010年1月のハイチ地震以降、ハイチにおける復興支援を続けており2010年度には、コレラ対応医療チームを救世軍病院に派遣した経緯から同病院での実施に至った。同病院には歯科がなく要請をうけ2012年2月に無料歯科診療を実施。AMDAハイチ支部の支部長で歯科医師のマック・ケビン・フレデリックが中心となり、13人から成るチームを形成した。歯科チームは、歯科診療に必要な医療器具・消耗品（5万円相当）をポルトープランスで調達し、114キロ離れたフォンデヌグル市の救世軍病院まで陸路で移動し、救世軍病院で無料歯科検診を行った。

2日間の無料歯科検診には、病院があるフォンデヌグル市のほか、周辺の南県アカン郡やニップ県ミラグワーヌ郡からも、片道20キロあまりの距離を移動して受診に訪れる人びとがいた。フォンデヌグル市周辺には歯科がなく、通常歯科を受診するためには、47キロ離れた西県レヨガーヌ郡プチゴアーブ市もしくは、首都ポルトープランスまで行かなくてはいけない。AMDA歯科チームは、救世軍病院を訪れた合計58人の患者に対して、歯科検診や抜歯などを行った。同時に患者に対して虫歯の予防法についても指導した。

◇**受益者の声**
なかなかこういう機会は無いので歯科検診は良かった。大変満足しました。
25歳のオーガスト・シャングレール

◇**現地協力機関**
フォンデヌグル市救世軍病院

■ハイチ地震復興支援 義足支援・スポーツ親善交流 フォローアップ活動

AMDAハイチ支部 フレデリック支部長（右から3人目）

◇**開催場所**　ハイチ共和国西県ポトプランス郡ポルトープランス市
◇**開催時期**　2011年12月24日
◇**派遣者**　日本からの派遣者はなし
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
マック・ケビン・フレデリック歯科医師/AMDAハイチ支部長、アシスタント4人の計5人

◇**事業内容**
2011年12月24日にAMDAハイチ支部主催のクリスマス会がポルトープランス市内で開催された。クリスマス会には、AMDAの「義足支援事業（2010年5月～2011年1月）」で、義足の無償提供を受けたハイチ地震の被災者の人びとが招待された。ドミニカ共和国で開催されたAMDAの「日本・ハイチ・ドミニカ共和国スポーツ親善交流プログラム（2010年8月）」に参加したハイチの子どもたちも招待された。合計で62人が出席した。義足の無償提供をした被災者の人びとや、スポーツ交流に参加した子どもたちを招いて、AMDAハイチ支部がクリスマス会を開催するのは2010年12月に引き続き2回目になる。

クリスマス会ではAMDAハイチ支部のマック・ケビン・フレデリック支部長からAMDAハイチ支部の活動報告が行われた後、飲み物や食事が振る舞われたり、皆でダンスを踊ったりした。義足をつけた人もダンスに加わり、参加者は皆満足している様子だった。

◇**受益者の声**
AMDAが義足を提供したデュラ・ミルダー（31歳・女性）
「AMDAから義足を提供された人たちのためのクリスマス会に参加するのは、私は2回目になります。大変満足しました。楽しかったです。」

AMDAが義足を提供したガエル・エズナール（19歳・女性）
「昨年1月に神戸の式典に参加しました事をしっかりと覚えており、心から感謝し、またその日の事を今は懐かしく思い出しています。よろず相談室（注）の皆さまそして他の団体の方々が私の事を気にかけてくださいました。私は、神戸が1995年の1月17日の被災からこれほど早く復興した事に驚くとともに、ハイチはあと復興には50年はかかるだろうと思いました」
（注）阪神・淡路大震災の震災被災者の方々の会

◇**現地協力機関**
ハイチ日本社会文化普及協会（CUSOPHAJ, Haitian Japanese Association for Social and Cultural Promotion）

中長期継続事業

■インド　AMDAピースクリニック

無料巡回診療で診察を待つ人たち

◇**実施場所**
インド　ビハール州　ブッダガヤ
◇**実施期間**　2009年11月～現在継続中
◇**派遣者**　菅波茂医師　難波妙　ニティアン・ヴィーラヴァーグ　AMDA本部職員
◇**現地での参加者を含めた事業チーム構成**
アーユルヴェーダ32医1名、女性セラピスト1名、アシスタント4名

◇**事業内容**
2009年末の発足以来、AMDAピースクリニックは地元コミュニティを対象にインドの伝統医学・アーユルヴェーダの治療を行ってきた。クリニックでは国内はもとより外国人巡礼者や旅行者が来院する。地元コミュニティにおいては無料

医療キャンプなどの地域保健プロジェクトが根付いてきた。同クリニックでは現在、インド人アーユルヴェーダ医を中心に、一名のセラピストと四名のアシスタントが日々の診察にあたっている。

2011年4月から2012年3月までのピースクリニック受益者数は1195名で、内訳はインド人501名、外国人694名となっている。無料医療キャンプにおいては2011年3月10日から2012年4月25日までに432人が診察を受けている。火事によって全身火傷を負った女性には無料でセラピーを行い、9,000ルピーを生活支援金として渡した。貧困に苦しんでいる人には薬やセラピーを無料としている。また、歩行困難や寝たきりの患者には訪問診療を行っている。ピースクリニックのスタッフはコミュニティ内の公衆衛生の意識向上のため、社会奉仕活動として施設周辺の清掃を行っている。

◇受益者の声

麻痺があり、生活するのも大変だったが、無料で診察やセラピーを受けられて、とても助かっている。3か月になるが、徐々に楽になっている。本当に感謝している。

◇現地協力機関

AMDAインド支部

■カンボジア　マラリア予防プロジェクト

マラリア予防教育プログラムを受ける村民たち

◇実施場所　カンボジア　プノンペン、コンポンスプー州

◇実施期間　通年継続中

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMDAカンボジア支部、現地NGO Life with Dignity、村内医療ボランティアの皆さん

◇事業内容

IEC（Information, Education and Communication）事業として、マラリア、性感染症、HIV予防のための印刷物を準備し、プノンペンの大学5校と高校3校に配布した。また、コンポンスプー州では地元NGOであるLWD(Life with Dignity)を通じて配布された。これらの資料は、予防、保護などの基礎知識向上に必要な情報が書かれており、重要な役割を担っている。

マラリア予防プロジェクトでは、村内医療ボランティアによるマラリア予防教育プログラムを施行した。内容は蚊帳の使い方、偽造薬品の危険性についての説明、近隣の治療施設の紹介など。BCC(Breakthrough Center Cambodia) コミュニティキャンペーン（村に出向き、予防教育を直接行うというもの）では、2011年1月～12月までの間に742人が直接受益者として、また24の村からビデオで受講する間接受益者1,387人が参加した。FGD（Focus Group Discussion）教育では772セッションを100の村で行い、8,157人が参加した。加えて、村内医療ボランティアによる一対一のマラリア教育を実施し、今までに100の村に102回訪問し、638人に教育した。

◇関係者の声

今までのAMDAカンボジアの活動の中で最も良い結果を残した活動となっている。参加したボランティアの95%が計画目標を達成し、各自の村でマラリア予防教育を行った。

AMDAカンボジア支部 支部長　S.リティ医師

◇現地協力機関

Breakthrough Center Cambodia、Life With Dignity

■AMDAモンゴル国眼科医療奉仕団とAMDA医療と魂のプログラム（ASMP）

菅波代表による問診・診察と健康相談

◇実施場所　モンゴル国　ウランバートル

◇実施期間　（眼科医療開始2010年6月）

第1次　2011年5月22日～6月4日
モンゴル医師団検眼研修　（岡山）

第2次　2011年6月14日～6月18日
第2回検眼技術向上セミナー（モンゴル）

第3次　2011年8月23日～8月30日
眼科支援事業、慰霊祭　（モンゴル）

◇派遣者

第2次　内田豪（めがねコンサルタント）
第3次　菅波茂医師　難波妙(AMDA本部)

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

医師2名、検眼師2名、岡山大学学生8名、モンゴル健康科学大学学生4名、

◇事業内容

前年度のモンゴルにおける眼科医療支援活動（検眼師セミナー、白内障手術提供プロジェクト）に続き、モンゴル眼科協会は11年度モンゴル国で初めての眼鏡専門学校設立を目指した。本年度は、岡山でのモンゴル医師団研修、モンゴル側からの要請を受け、モンゴルにて、第2回検眼技術向上セミナー、8月には眼科支援事業を実施した。

医師団研修については、モンゴルから眼科協会会長、検眼師、眼科医などを日本に招へいし、東京、岡山の眼鏡の専門学校などでの研修を行い、検眼の手法や弱視に関する専門知識を学んだ。

第2回検眼技術向上セミナーでは、日本から日本眼鏡技術者協会の内田豪氏を昨年に引き続きモンゴルに招き、モンゴル全土の眼科医、眼鏡関係者を対象に子どもの弱視をテーマに検眼セミナーを実施した。子どもの斜視弱視や屈折異常に関わる検眼師としての正しい知識と技術についての講義を2日間行い、残り2日は実際に子どもの眼鏡の検眼を訓練した。

眼科支援事業では、6月のセミナーを受講した眼科医による弱視の子どもの診断と眼鏡の無償提供をした。また、弱視の子どもは内科疾患を持つ傾向があるとの眼科協会の指摘を受け、菅波代表による弱視の子どもの健康相談を実施。それに加えて眼鏡学校設立に向けて準備を進めるモンゴル側とともに政府関係機関への後押し、日本モンゴル友好病院開設準備、モンゴル赤十字との協力協定締結準備、日本大使館、モンゴル保健省などへの活動報告などを行った。

またモンゴル最大でチベット仏教の総本山であるガンダン寺で、ASMP:AMDA医療と魂のプログラム、慰霊祭を実施。昨年までは、ノモハン事件戦没者のための平和祈願祭であったが、本年はガンダン寺からの希望で東日本大震災犠牲者のための慰霊祭となった

◇受益者の声

これまでなんとなくわかっていたつもりにたっていたことが、今回のセミナーで明確な理由を分かりやすく説明して頂いたおかげで確実な自分の知識と技術になった。（セミナー受講者）

多くの方々が 本当にモンゴルの将来に希望を持ってご指導して下さったことに心から感謝している。モンゴル国内の関係者に今回習得した内容について情報共有することが、皆様への恩返しと認識している。（モンゴル眼科協会会長ブルガン医師）

◇現地協力機関
モンゴル眼科協会、モンゴル赤十字、モンゴル国保健省、モンゴル健康科学大学
モンゴル宗教省　ガンダン寺

■スリランカ・白内障手術プロジェクト

白内障の手術をするスリランカ、台湾の医師ら

◇実施場所　スリランカ民主社会主義共和国　北部州ジャフナ県ジャフナ市
◇実施期間　2011年8月4日～8月11日（第1回）、2011年12月16日～12月18日（第2回）、2012年2月27日～2月29日（第3回）
◇派遣者
ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン　調整員／AMDA本部職員
◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
（第1回）台湾国際医療支援チームの外科医2人、ジャフナ教育病院の外科医2人と看護師等
（第2回）AMDA台湾支部の外科医3人とパナドゥラ市のライオンズ・ギフト・オブ・サイト病院の医師ら
（第3回）デービッド・チャオカイ・チャンAMDA台湾支部長／眼科医、AMDA台湾支部の外科医2人、トリンコマリー市の国立病院の医師ら、総勢20人程度

◇事業内容
AMDAでは2009年に30年近い内戦が終結したスリランカの復興支援事業として、シンハラ、タミル、タミルムスリムの3民族グループに対して、平等に医療を通じて和平を働きかけるAMDA医療和平プロジェクトを実施している。その一環として2011年度には3回にわたって無料白内障手術ミッションを実施した。

第1回目の2011年8月4日～8月6日には、スリランカの北部州ジャフナ県（タミル人の居住地域）のジャフナ教育病院で、134人の患者に対して無料で白内障の手術を行った。手術を行う医師は、AMDAと協力協定を結んでいる台湾国際医療支援チーム（Taiwan IHA: Taiwan International Health Action）から派遣した。8月11日には、手術の合併症などが発生していないかを確認するため手術を受けた全患者134人に対し、ジャフナ県ポイントペドロ市（ジャフナ市中心部から北東30キロ程度）のマンティカイ基地病院で術後の再診を行った。

第2回目の手術ミッションは、2011年12月16日から18日の日程でスリランカ西部州カルタラ県パナドゥラ市（コロンボから南方へ30キロ程度、シンハラ人の居住地域）で行われた。AMDA台湾支部から派遣された3人の外科医がパナドゥラ市のライオンズ・ギフト・オブ・サイト病院（Lions Gift of Sight Hospital）の医師らと協力して、およそ70人に対して白内障の手術を行った。

第3回目の手術ミッションは、2012年2月27日から29日の日程でスリランカ東部州トリンコマリー県トリンコマリー市（イスラムタミル人の居住地域）の国立病院で行われた。手術は、地元医師とAMDA台湾支部長含む3人の医師らによって行われ、30人の重症患者が手術を受けた。同病院へAMDA台湾支部のデービッド・チャオカイ・チャン支部長から医薬品や機材の贈呈が行われた。

◇関係者の声
台湾からの派遣された医師が驚いたのは、スリランカに白内障患者がとても多くいたことと、その多くが深刻な症状を抱えていたことである。台湾の医師らが非常に限られた設備で素晴らしい手術をしたことに対して、地元の医師から非常に感謝された。この手術を機に、後日台湾国際医療支援チームから高圧滅菌器（オートクレーブ）1台と白内障手術用ハンドピース2セットの医療器材が病院に寄付されることが決定した（注：医療器材は2012年4月に台北駐日経済文化代表処からAMDAに贈呈された）。

白内障手術の費用が高額のため、長い間手術が受けられずにいた多くの患者はその症状は重症化し、ほとんど目が見えない状況が続いていた。手術によって視力が回復した人びとからは口々に、視力が回復したことを感謝する言葉が、AMDA派遣者に寄せられた。

ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン（オーストラリア国籍スリランカ人）
AMDA本部職員

◇現地協力機関
ジャフナ教育病院（北部州ジャフナ県ジャフナ市）、ライオンズ・ギフト・オブ・サイト病院（西部州カルタラ県パナドゥラ市）、国立病院（東部州トリンコマリー県トリンコマリー市）

■紛争復興支援スポーツ親善交流プログラムースリランカ

スポーツ親善交流プログラムでネットボールをする女子ら

◇開催場所　スリランカ民主社会主義共和国　アヌラダプラ県
◇開催期間
2011年9月23日～9月24日
◇派遣者　菅波茂　医師、ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン　調整員／AMDA本部職員、石崎千里　AMDA本部インターン（国連平和大学　修士課程）、佐藤康介　AMDA本部インターン（川崎医療福祉大学　保健看護学科2年）
◇現地での参加者を含めた事業チーム構成
トリンコマリー県（タミルムスリム人）の1校、キリノッチ県（タミル人）の1校、アヌラダプラ県（シンハラ人）の2校の10～14歳の子ども159人と各校の引率教員。

◇事業内容
2011年9月23日と9月24日の2日間、AMDAはスリランカのアヌラダプラ県で「AMDAスリランカ紛争復興支援スポーツ親善交流プログラム」を開催した。東部のトリンコマリー県（タミルムスリム人）の1校、北部のキリノッチ県（タミル人）の1校、北中部アヌラダプラ県（シンハラ人）の2校の10～14歳の子ども159人がプログラムに参加した。3つの異なる民族・宗教の学生らが、スポーツや芸術を通して交流し、親睦を深めた。

9月23日には全参加者が仏教とヒンズー教、イスラム教の寺院を訪問した。9月24日には男子学生はサッカー、女子学生はネットボールの交流試合を行った。それと並行して絵画大会を開催した。学生らは日本の支援者からの色鉛筆やクレヨンを使い、平和なスリランカを願って、それぞれの思いを表現したポスターを作成した。また同日には文化交流プログラムも行い、演劇やダンスなどを通して交流を図った。初めは緊張して笑顔が少なかった学生らもスポーツや文化交流を通じて次第に笑顔が和ぎ、初めて触れ合う異民族・異宗教の学生らの多様性を理解し、友情関係を構築することができた。

スリランカは2002年に一時停戦合意がなされたものの、2007年再燃し2009年まで26年ものあいだ内戦状態にあった。特に激しい戦闘区域となった北部では内戦の爪痕が大きく残り、未だインフラや教育を受けられる環境が整っているとは言い難い。さらに、今回招へいの対象となった学生らは内戦中に生まれ、その中で成長しているため、他の民族・宗教・文化に触れる機会に恵まれなかった。実際に今回参加した学生の大半が、このプロジェクトを通じて初めて自分たちとは異なる民族・宗教の子どもたちと触れあった。

◇関係者の声

お互いを理解し受け入れることは、特に紛争後の状況では、平和な国を実現するカギとなる。AMDAが行ったこのスリランカでのプログラムは子どもたちだけでなく、大人にとっても異文化、異民族間に友情と協調を構築するのに非常に重要なプログラムとなった。

AMDAスリランカ支部長　サマラゲ医師

「色々なことがあったけど、このような機会を作ってくれてありがとう。今まで生徒は他の民族と接することはなかったけど、彼らにとって良い経験になったと思う。僕ら教師にとっても良い経験だった」とムスリムの教師から最終日に言われた。また三民族の生徒それぞれがバスで去る際に、太鼓を叩きそれぞれの民族舞踊を踊りだした。三民族の生徒が輪になって踊っている姿を見て、言葉は違ってもそれぞれが何かをこの数日間で感じたのだと思った。「平和への一歩はお互いを知り合うことから始まる」という意味を実感した。

AMDA本部インターン　石崎千里

◇現地協力機関

AMDAスリランカ支部、スリランカ国語及び社会総合省（Ministry of National Languages and Social Integration）

ASMP

AMDA Soul and Medicine Program
AMDA医療と魂のプログラム

ASMPとは、第二次大戦戦没者そして近年の自然災害犠牲者に対して、宗派を超えた宗教者による合同慰霊祭を、災害被災者にはAMDAによる医療支援を実施することを通して、平和の追及を行おうとする、宗教者ボランティアとAMDAの合同事業。2000年から毎年実施。

尚、各宗教者は自費参加しており、2011年度はフィリピンとモンゴルで実施した。

■フィリピン

フィリピンの人びとと東日本大震災の犠牲者のために祈りを捧げる臨済宗蔭涼寺（岡山市）篠原真祐住職

◇実施場所　フィリピン共和国　マニラ首都圏

◇実施期間　2011年10月2日

◇派遣者

臨済宗蔭涼寺（岡山市）篠原真祐住職、ヴィーラヴァーグ・ニッティヤーナンタン調整員／AMDA本部職員

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

フィリピンのローマカトリック、プロテスタント（福音派）、ギリシャ正教会の司祭ら、AMDAフィリピン支部のメンバー、アジア医学生連絡協議会（AMSA: Asia Medical Student Association）フィリピン支部のメンバー

◇事業内容

2011年10月2日にフィリピン共和国マニラ首都圏のライオンズホールで「AMDA医療と魂のプログラム(ASMP)」が開催された。フィリピンで最初にASMPを実施してから今回で10年になる。今回は、2011年3月11日の東日本大震災で犠牲になられた東北の人びとに祈りを捧げるために開催された。式典では、最初にフィリピンと日本の国歌が流れ、AMDAフィリピン支部長が開会の辞を述べた。その後、日本から参加した臨済宗蔭涼寺（岡山市）の篠原真祐住職の他、地元のローマカトリック、プロテスタント（福音派）や正教会の司祭たちにより、東日本大震災で犠牲になられた方々や被害に遭われた方々に祈りが捧げられた。地元の宗教者の祈りのなかでは「フィリピン国民は、東日本の人びとが困難な時に兄弟姉妹として寄り添う」というメッセージが発せられた。AMDA本部職員やAMDAフィリピン支部のメンバー、そしてアジア医学生連絡協議会（AMSA: Asia Medical Student Association）フィリピン支部のメンバーも列席した。最後に参列したフィリピン人、日本人が一緒に祈りの歌を歌い、閉会した。

◇現地協力機関

フィリピンのローマカトリック教会、プロテスタント（福音派）教会、正教会、AMDAフィリピン支部

海外研修事業

■第1回「おかやま国際塾」モンゴル研修

養護施設での歯科衛生指導

◇実施場所　（国内研修）岡山市（海外研修）モンゴル国ウランバートル市、セレンゲ県

◇実施期間　開講式2011年7月17日、国内研修2011年7月17日～8月22日、海外研修2011年8月23日～8月30日、修了式2011年11月5日

◇派遣者

参加者：大学生9人（岡山大学法学部5人・医学部2人・歯学部1人、川崎医療福祉大学医療福祉学部1人。川崎の学生は国内研修のみ）

随行者：AMDA本部職員2人（難波妙、大政朋子）

◇現地での参加者を含めた事業チーム構成

AMSA（アジア医学生連絡協議会）モンゴル支部の学生

◇事業内容

「おかやま国際塾」は、AMDAとおかやま国際塾実行委員会が行う事業で、本実行委員会委員長にはAMDA代表・菅波茂、副委員長には岡山大学大学院　社会文化科学研究科教授・黒神　直純氏が就いている。

岡山県内の大学生に、AMDAが提唱する「市民参加型人道支援外交」に基づいた国際貢献活動の企画、立案および実施のすべてに関わる機会を提供することによって、国際貢献活動への理解を深めかつ企画および管理能力を身につけた、社会のグローバル化に対応できる人材を養成することを目的としている。

パイロット事業として開始した2011年度は、9人（1人は国内研修のみ参加）の塾生が参加し、7回の事前研修と8日間のモンゴルでの海外研修を実施した。

事前研修では、4講義を受講（市民参加型人道支援外交実践論、国連法、NGO論、モンゴル医療支援）した上で、塾生たちがAMSAモンゴルと直接連絡を取りながら、ホームステイ先の確保、現地で行うプ

レゼンテーションの準備、モンゴルの歴史文化の事前調査、サマーキャンプにおける子どもたちとの交流プログラムの立案などを行った。

海外研修では、塾生たちはモンゴルの学生や現地の人びとと8日間を共に過ごした。一行は8月23日にウランバートルに到着し、24日は駐モンゴル日本大使の表敬訪問、ウランバートル郊外の児童養護施設での歯科衛生指導、25日はモンゴル健康科学大学での東日本大震災活動報告、弱視の子どもの診断と眼鏡の無償提供の見学、26日にはカンダン寺で慰霊祭、ハルハ川戦争従軍者との交流を行った。27日と28日にはロシアとの国境にある児童職業訓練施設でハラ川清掃などのボランティア活動に従事した。29日にウランバートルに戻った一行は、30日に帰国の途に就いた。塾生各々が積極的にモンゴルの学生と交流を図ることによって、文化の違いや学生としてできる国際貢献活動の役割について改めて考えることができた。

AMDAの海外支部が事業主体として実施している事業

■ネパール東部ダマックにおける医療支援事業

リフェラルヘルスセンター

ブータン難民と地元住民の双方を医療支援対象とした事業として1992年から、メチ県ジャパ郡ダマックでAMDAネパールを実施主体として継続している。現在事業は、小児科病棟やHIV/性感染症予防事業、難民キャンプ内ヘルス・ケア事業、人材育成など他分野にわたる。

■バングラデシュ ABCプロジェクト AMDA Bank Complex

AMDAバングラデシュが主体となり、健康、医療、女性を対象とする小規模貸付、職業訓練、教育、地域開発、など総合的な事業をガザリア地区において1998年より実施している。バングラデシュで

AMDAバングラデシュの洪水シェルター

は毎年のように水害に見舞われている。AMDAバングラデシュでは、水害等災害時の避難所となる建物を建設し活用している。また日本からの見学も積極的に受け入れている。

■ネパール子ども病院事業

（正式名称：シッダールタ母子専門病院）

1998年11月、阪神淡路大震災後の日本とネパールの多くの支援者の方々の協力により設立された首都以外で唯一の母子専門病院。設計については安藤忠雄建築事務所がボランティアで協力。ネパール南西部タライ平野に位置するルパンデヒ郡ブトワル市に設置。高い医療サービ

ネパール子ども病院

ス提供が定評で、地元からだけでなく100Km以上離れた遠路訪れる患者さんもいる。年間分娩数は3000人を超える。

診察科：
小児科、新生児科、産婦人科、女性内科
病床数：154床
（小児科、新生児科、産婦人科）
スタッフ数：145名

2011年8月より新たな周産期病棟（2階建）の建設を開始（2012年9月末完成予定）。この事業管理についてはAMDA社会開発機構が管轄する。

AMDA高校生会 2011年度の活動

県内の高校生を中心に20人が集まり、今年度は東日本大震災の支援を中心に活動をしました。ほぼ毎月一回AMDA本部に集まり行事の計画や打ち合わせ、また学習会などを行いました

年月	主な内容
2011年	
5月	大槌高校へのメッセージ作成
	AMDA大槌高校生会との交流会準備
6月	東日本大震災AMDAからの支援についてスタッフからの報告会
	高校生によるバングラデシュスタディツアー報告会
	AMDA大槌高校生会交流会準備
7月	AMDA大槌高校生会交流会準備
	AMDA大槌高校生会との交流会(7/23)
	国際ソロプチミスト主催ユースフォーラムへ参加
9月	交流会の反省会、今後の活動についての話し合い
10月	高校生3年生活動終了会
	岡山大学医学部学園祭(鹿田祭)参加への準備
11月	岡山大学医学部鹿田祭へ参加し紙面での活動報告
	と来場者へ大槌へのメッセージ依頼とまとめ(11/23,24)
	完成したメッセージの送付
12月	鹿田祭参加への反省会
	絆コンサート準備開始
2012年	
1月	絆コンサート準備
2月	絆コンサート準備
3月	絆コンサート準備
	絆コンサートへの参加
	（会場準備や当日の運営と進行担当及び高校生会からの活動報告）3/19

国内の動き

＜公開セミナー＞

岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」公開セミナー　9月

＜大学講義＞

岡山大学、岡山県立大学大学院、川崎医療福祉大学、福山平成大学（15限）、相生市立看護専門学校（15限）、放送大学岡山学習センター等

＜出張講演＞小・中・高校、教育委員会、企業、官公庁、各種団体からの講演依頼に対応　計116件

＜国内連携＞

・MERCY（マレーシア本部）との連携協定調印　4月23日
・明治国際医療大学との連携協定調印　6月17日
・十字屋グループとの連携協定調印　12月16日

＜海外活動地視察教育プログラム＞

・おかやま国際塾 - モンゴル研修　8月

＜研修招聘＞

・モンゴル眼科医2名、検眼師1名　5/22～6/3

＜海外講師招聘＞

・ネパール / トリブバン大学医学部付属病院助教授　小児科医
　ラメシュワール・ポカレル氏　12月

＜研修受け入れ＞

・岡山市立山南中学校教諭　秋山淑恵氏　岡山市教育委員会「20年経験者研修講座社会体験研修」

＜インターン受け入れ＞

・ジェームス　ブッテンハイム氏　ディキンソン大学　6/14～8/12
・石崎千里氏　国連平和大学（大学院大学）　7/4～10/7
・美甘きよ氏　筑波大学大学院人間総合学科研究科看護科　8/1～8/23
・ハムカ・ラニ医師（インドネシア / ハサヌディン大学病院）　8/18～11/25

＜主な主催事業＞

・第3回AMDAグループ市民参加型人道支援外交円卓会議　7月
・東日本大震災復興支援スポーツ交流プログラム　8/2～6（8/3総社、8/4岡山）
・第4回AMDA市民参加型人道支援外交円卓会議　11月
・AMDA大槌健康サポートセンター開所式　12月
・AMDA東日本大震災絆コンサート　3/18広島、3/19岡山

＜主なイベント参加＞

・おかやまコープ夏の親子イベント　8月
・岡山シンフォニービル創立20周年記念事業
　東日本大震災復興支援パネル展　1月
・ワン・ワールド・フェスティバル　2月
・チャリティ洋蘭展　3月

＜AMDA高校生会＞

・AMDA高校生会大槌のメンバー2人の高校生を岡山に招聘し交流　7/22～7/24
・絆コンサートを始め、東日本支援に関する各種活動、学習会を通年実施
・国際ソロプチミストユースフォーラムにて発表　7月

AMDA：特定非営利活動法人アムダ役員

理事長　菅波　茂　医師
　AMDAグループ代表・元（医）アスカ会理事長
理事　菅波　知子　医師
　元（社福）遊々会理事長・元（医）アスカ会副理事長
理事　中西　泉　医師
　（医）慶泉会理事長・町谷原病院院長
理事　成澤　貴子
　特定非営利活動法人アムダ ボランティアセンター事務局長
理事　難波　妙
　特定非営利活動法人 アムダ　国際部　部長
理事　野島　治
　倉敷市教育委員会　嘱託啓発指導員・元小学校校長
監事　渡丸　弘之
　公認会計士

AMDA団体概要

所在地　〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町3-31-1
設立年月日　1984年8月
　国連経済社会理事会「総合協議資格」取得2006年
　岡山県認証　特定非営利活動法人：AMDA
AMDAグループ代表・特定非営利活動法人AMDA理事長　菅波　茂
AMDAグループ構成団体
　特定非営利活動法人アムダ：AMDA
　AMDAインターナショナル（任意団体）
　特定非営利活動法人AMDA社会開発機構
　特定非営利活動法人AMDA国際医療情報センター
　アムダ国際福祉事業団
海外活動：
　緊急医療支援、復興支援、合同医療ミッション、スポーツ親善交流、ASMP、セミナー開催等
活動国：日本、インド、モンゴル、スリランカ、カンボジア、バングラデシュ、ネパール、インドネシア 他
国内活動：
　出張講演、大学講義講師受付、活動報告会・セミナー開催、国内防災訓練対応、高校生会、イベント参加
　ボランティア地域組織3支部・7クラブの各地域での活動
AMDA支部：
　兵庫県支部、沖縄支部、神奈川支部、
AMDAクラブ：
　大槌、鎌倉、高知、玉野、福山、竹原、夕張
　神女（神戸女子大学）
スタッフ：常勤10人 非常勤7人 嘱託1人
会員数：1,254人

以上 2012年7月1日現在

東日本大震災被災者に対する緊急医療支援及び復興支援活動　支出報告

2011年4月1日～2012年3月31日

（単位：円）

費目	金額
奨学金	15,480,000
奨学金振込手数料	48,855
派遣者交通費・手当	21,601,857
現地雇用人件費	13,050,251
宿泊費	8,317,458
生活支援雑貨類用品	7,616,721
医薬品及び医療消耗品	6,550,666
健康サポートセンター設備費	6,534,089
運搬費	1,944,905
通信費	1,127,295
事務消耗品	888,997
栄養給食費	350,814
保険	254,927
その他	1,405,946
合計	85,172,781

※事務局の間接経費は含んでおりません。

活動計算書

自　平成23年4月1日　至　平成24年3月31日　　（単位：円）

科　目		金　額
Ⅰ　収入の部		
寄付金収入		334,239,161
会費収入		11,148,500
助成金収入		5,892,798
販売収入		386,300
その他収入		626,377
当期収入合計		352,293,136
Ⅱ　支出の部		
事業費		
東日本救援事業費	86,818,295	
緊急救援事業費	8,309,221	
災害復興支援事業費	2,959,945	
中長期事業費	11,364,890	
日本国内事業費	10,174,290	119,626,641
共通管理費		46,507,815
当期支出合計		166,134,456
当期収支差額		186,158,680
前期繰越収支差額		258,702,121
次期繰越収支差額		444,860,801

※使途が制約された寄付金の内訳　　正味財産の増減および残高の状況は以下のとおりです。

当法人の正味財産は、444,860,801円ですが、そのうち213,514,260円は下記のように使途が特定されています。

内容	期首残高	当期増加高	当期減少額	期末残高	備　考
東日本大震災支援事業	81,928,673	187,753,097	97,258,801	172,422,969	翌期以降に使用予定の支援用資金
東日本奨学金事業	0	46,884,759	15,528,855	31,355,904	翌期以降に使用予定の支援用資金
健康サポートセンター支援事業	0	20,278,454	10,543,067	9,735,387	翌期以降に使用予定の支援用資金
合　計	81,928,673	254,916,310	123,330,723	213,514,260	

貸借対照表

平成24年3月31日現在　　（単位：円）

資産の部		負債の部	
科　目　名	金　額	科　目　名	金　額
Ⅰ流動資産	424,729,228	流動負債	4,476,603
現金	996,682	未払金	4,117,841
預金	417,851,276	預り金	358,762
商品・棚卸資産	3,270,483		
未収金	24,000		
前渡金	125,000		
仮払金	2,461,787	負債合計	4,476,603
Ⅱ固定資産	24,608,176		
有形固定資産	8,612,661		
建物（健康サポートセンター）	5,971,662		
建物付属設備	719,250	正味財産の部	
器具備品	3,424,370		
減価償却累計額	▲ 1,502,621	正味財産	444,860,801
無形固定資産	348,075	（うち当期正味財産増加額）	186,158,680
ソフトウェア	348,075		
Ⅲ投資その他の資産	15,647,440		
プロジェクト準備金	15,647,440		
資産合計	449,337,404	負債及び正味財産合計	449,337,404

平成23年度 特定非営利活動法人AMDA決算報告に関する監査報告書

自　平成23年4月　1日

至　平成24年3月31日

上記決算報告書は、監査の結果適正にして妥当なものと認めます。

平成24年5月31日

監事　的野秀和

AMDA 被災地間相互交流事業
気仙沼市南町紫商店街を練り歩く大槌町伝統芸能の臼澤鹿子踊り

平成 24 年度も、岩手県上閉伊郡大槌町の AMDA 大槌健康サポートセンター、宮城県南三陸町の志津川病院、宮城県石巻市雄勝地域などを拠点に医療を中心に様々な活動を実施しています。皆さまの温かいお気持ちを被災地に届けます。